

一般社団法人 日本歯科医学会連合主催
商標登録展開ワーキンググループ2024年度フォーラム
プログラム 抄録集

子どものお口の発達と
歯科医療を多方面から考える

令和 7 (2025) 年2月1日 (土) ~2月28日(金)
オンデマンド配信

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F
一般社団法人 日本歯科医学会連合
Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp



一般社団法人 日本歯科医学会連合主催
商標登録展開ワーキンググループ2024年度フォーラム
プログラム 抄録集

子どものお口の発達と歯科医療を多方面から考える
～口腔機能発達不全症の管理指導へのヒント～

オンデマンド配信：令和7(2025)年2月1日(土)10時～2月28日(金)17時

【プログラム】

司会進行	商標登録展開ワーキンググループ委員長	田村文誉
開会の辞	将来構想推進委員会	委員長 小林隆太郎(3分)
挨拶	日本歯科医学会連合	理事長 住友雅人(3分)
講演	(座長) 商標登録展開ワーキンググループ委員	木本茂成
1.	発達障害等の発達特性を有する子どもの食の困難と発達支援(45分) 田部絢子 金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授	
2.	摂食障害や偏食の子どもたちが楽しく食べるために(45分) 藤井葉子 医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科 管理栄養士	
3.	子どもの摂食障害(食べたいのに食べられない子への対応)(45分) 作田亮一 獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長	
討論 ディスカッション(15分)		
閉会の辞	商標登録展開ワーキンググループ委員	弘中祥司(3分)

発達障害等の発達特性を有する子どもの食の困難と発達支援

田部 絢子 (たべ あやこ)

金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授



抄録

発達障害当事者は食べ物の色、形などの見た目、においや味、温度や感触に関する「苦手、不快」の程度が強く、食べられないものが多く存在し、食物、料理、食器具、食事環境に関する過敏性、極端な偏食、異食、肥満等の多様な食の困難を呈する。食の困難の背景には感覚特性や口腔機能の問題もみられる。

感覚過敏や身体の不器用さ等の発達特性を有する子どもは「食べられない食品が多い」「箸を上手に使えない」「咀嚼、嚥下をスムーズにできない」「味が混ざることが顕著に苦手」等の食の困難を有することが多い。食べるという行為は自己の体内に「食物＝異物」を直接的に受け入れることであり、馴染みのない経験は不安を引き起こしやすいため、特に新奇性恐怖や感覚過敏を有する発達障害当事者にとっては不安、ストレス等を強めやすく、拒否反応が強まった結果、偏食として表れているとも考えられる。食べることに於いて同一性を保持することは安心につながるからである。

食は子どもの発達の基盤であり、子どもとその家族のQOLに大きく関わっているが、発達障害等の発達特性を有する子どもの食の困難に対する専門的な取り組みや発達支援は全国的に拡がっておらず、専門家養成も不十分な状況である。そこで、子どもの食の困難と支援ニーズに関する報告者らの実態調査、発達相談臨床を通して、発達障害等の発達特性を有する子どもの食の困難の動向および発達支援において大切にすべき視点を検討していく。

略歴

職歴

- 2013年 大阪体育大学健康福祉学部専任講師
- 2015年 大阪体育大学教育学部専任講師
- 2016年 大阪体育大学教育学部准教授
- 2018年 立命館大学産業社会学部准教授
- 2020年 金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授、博士（教育学）

著書

発達障害等の子どもの食の困難と発達支援（風間書房、2019年刊行）

コロナ禍と子どもの発達困難・リスクの研究—子どもは現在もコロナ禍の最前線にいる—（風間書房、2024年刊行）ほか

学会活動，受賞等

日本特別ニーズ教育学会 代表理事，編集委員

日本特殊教育学会 理事，常任編集委員

日本子ども学会 理事

第18回杉田玄白賞「奨励賞」（2019年）

2021年度日本特別ニーズ教育学会文献賞（2021年）

摂食障害や偏食の子どもたちが楽しく食べるために

藤井葉子（ふじい ようこ）

医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科 管理栄養士



抄録

私は、長年食べにくい子どもに接し、その経験をもとに、拒食、偏食、嚙めない等の子どもの研修、施設へのアドバイスをを行っている。食べられない原因は、感覚、口腔機能、栄養の問題があり、影響しあって一部を治すのは難しく、発達面、食事記録、生活全体を把握し対応が必要と感じる。感覚の問題は、感覚に合った調理法等で食べる印象をよくする。口腔機能の問題は、例えば、舌の送り込みが弱いと、ねっとりやばらつきが苦手、舌の左右に動かさず咀嚼ができない、咀嚼ができてもしっかり潰せない等がある。失敗経験より不安で同じ食材しか食べない等、食べ易く、いい動きを学習できる食形態と介助の必要を感じる。食事を促す支援も、空腹でないと受け入れられない。偏食対応を行った児のカウプ指数は、開始も改善後も1.5台が多く、体重は開始も改善後も-2SDから1SDが多く身長よりも低かった。食事摂取基準の同年齢のエネルギー必要量に比べて少なかった。そのため標準の体格やエネルギーに合わせようとするむら食いや偏食になるのではないかと考える。過去の体格から目標を推測し、むら食いの起こらない食事量にすると意欲的な食生活になることが多い。現在は歯科に勤め「食べれる外来」「親子教室」で訓練用の食材の用意やアドバイスをを行っている。食べられないことに気付く始まりが、離乳食あたりが多く、保育園等でも苦慮しており、専門家と連携や口腔機能を促す支援が要と思われる。

略歴

職歴

- 1994年4月 広島市皆賀園
- 2000年4月 高齢者生活保護施設 救護院
- 2004年4月 広島市西部こども療育センター
- 2019年7月 中央法規出版「発達障害児の偏食改善マニュアル」出版
- 2023年8月 医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科
摂食嚥下障害児親の会つばめの会アドバイザー、合同会社こども偏食小食ネットワーク協会アドバイザー、一般社団法人日本会食恐怖症克服支援協会アドバイザー
広島県栄養士会常務理事
一般社団法人日本人間健康栄養協会評議員

子どもの摂食障害（食べたいのに食べられない子への対応）

作田亮一（さくた りょういち）

獨協医科大学埼玉医療センター 特任教授

子どものこころ診療センター長



抄録

児童・思春期に発症する摂食障害（摂食症）は増加している。コロナ禍も影響している。小児期の主な摂食症は、やせ願望によるダイエットによる著しい痩せを示す「神経性やせ症（摂食制限型）」とやせ願望が明らかではなく、食物が喉に詰まるのではないかとなどの恐怖や不安を示す「回避・制限性食物摂取症：ARFID」の2つの病型がある。成長期の慢性的な低栄養は、骨粗鬆症や無月経、甲状腺機能異常、低身長など内分泌代謝の異常、不安症・強迫症、うつ病など精神面の問題、自殺など重大な合併症を残す。それゆえに、早期発見と早期治療が必要である。歯科医師は、過食嘔吐のサインを早期に発見し、頻繁な嘔吐による口腔・歯科組織への悪影響を防ぐことができる。摂食症患者は、摂食症治療を回避する傾向があるため、歯科合併症を有する患者を診療する歯科医は、摂食症専門治療機関へ患者を繋ぐ大切な役割もある。

略歴

学歴

1982年 日本大学医学部卒業

職歴

1991年 国立精神・神経医療研究センター神経研究所研究員

1993年 獨協医科大学越谷病院小児科講師

1999年 獨協医科大学越谷病院小児科助教授

2002年 トロント小児病院神経病理学リサーチフェロー

2009年 獨協医科大学越谷病院子どものこころ診療センター長・教授

2022年 獨協医科大学医学部特任教授，子どものこころ診療センター長

学会活動

公益社団法人 日本小児科学会 代議員

一般社団法人日本小児心身医学会 常任理事

日本摂食障害学会 副理事長

一般社団法人日本摂食障害協会 理事

日本眼育推進協議会 副理事長

公益社団法人発達協会 副理事長

一般社団法人子どものこころ専門医機構 監事

著書

小児科外来で診る 子どものこころプライマリ診療ガイドブック（監修）（診断と治療社）

「摂食障害」からわが子を救う本（監修）（大和出版）

親子で成長！気になる子どものSST実践ガイド（監修）（金剛出版）

発達障害いきいきサポート:子どもから大人まで支援のために知ってほしいこと（著）（富山房
インターナショナル）

10代のためのもしかして摂食障害?! と思った時に読む本（監修）（合同出版）

音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル（監修）（春秋社）

子どものこころ医療ネットワークー小児科&精神科in埼玉（監修）（批評社）

食べるのがこわい. わかって私のハンディキャップ③摂食しょうがい（監修）（大月書店）ほか